



ノーベル賞へのきっかけに 子どもたちへ図書寄贈

7.30
tue

各種化学製品製造・輸入販売や関連研究開発を行っている、ダウ・ケミカル日本株式会社(本社・東京)小郡開発センターから、50万円相当の理科教育関係の図書が寄贈されました。

ジョン・ブリーンさん(研究開発本部本部長、写真右)は「子どもたちが科学に興味を持ち、将来ノーベル賞受賞者が出てくれたら」と話されました。

市は、ダウ・ケミカル日本株式会社より平成12年から毎年図書の寄贈を受けており、市内の小中学校で多くの子どもたちに読まれています。



熱戦を繰り広げた拳士

栖杯空手道選手権大会入賞

7.7
sun

全日本新空手道連盟KSS健身館(師範代 那須儀治すみかさん)が佐賀県で行われた第12回栖杯ジュニア空手道選手権大会で、3人が上位入賞(内優勝1人、3位2人)を果たしました。

3位に入賞した田籠悠人くん(立石小6年)は、「次は優勝を目指します」と次の目標に向けて、決意を新たにしました。

新空手K-2グランプリで優勝し、K-1に出場経験がある那須さんは、「子どもたちには、勝ち負けではなく、将来に向けて一所懸命努力することの大切さを感じてもらえれば」と話されました。

異文化、そして人とのふれあい

韓国の小学生と交流

NPO法人元気っ子未来塾が主催する日韓小学生交流事業に、市内の小学生15人と韓国釜山広域市のオンゴン小学校の児童25人が参加しました。

7月27日～29日は小郡市に韓国からホームステイで訪れ、みんなでそば打ち体験や生け花体験を行い、8月2日～4日には韓国釜山広域市に小郡からホームステイをし、チマチョゴリを着るなど韓国の文化を体験しました。参加した小学生は、お互いの文化と一緒に体験することで、異文化を学ぶだけでなく、深い絆もつくることができました。



戦争体験を風化させないために

「原爆の図」画集寄贈

8.9
fri

組坂繁之さん(部落解放同盟中央執行委員長)から、原爆投下直後の広島で救援活動を行った丸木位理さん・俊さん夫妻が広島での惨状を描いた屏風連作「原爆の図」の画集が寄贈されました。

組坂さんは、「原爆・戦争体験をした人が少なくなり、風化してきている。戦争は最大の人権侵害で、あつてはならないこと。平和学習に活用してほしい」と話されました。

「原爆の図」は、人権教育啓発センターが所蔵し、小中学校への貸出しや、一般への閲覧などでの活用を予定しています。

